

## シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理 (5) —庭木としてのフヨウとその園芸品種—

日本樹木医会富山県支部  
樹木医 西村 正史

本県は多雪地帯であり、冬の積雪から樹木を守るために、庭木等の樹木の雪囲いや雪吊りを行うことが常識となっています。でも、労力は大変であり、経費もかさみます。

ところが、フヨウは、富山では冬の前に地際から幹を切断して越冬させると、翌年の春には新たな幹が再生し、きれいな花を咲かせます。冬の雪対策としては地際付近で幹を切るだけでよいのです。フヨウを植えてみませんか。

### 1. フヨウ

アオイ科フヨウ属の落葉低木で、樹の高さは2m程度です(写真-1)。8~10月頃の早朝に10~14cmのピンク色の花を咲かせますが(写真-2)。夕方にはしぼんでしまいます。でも次から次へと花が咲くので、長い期間楽しむことができます。庭にフヨウを植える際に

は、湿り気はあるものの、水が地表に長く溜まらない水はけのよい場所を選んで下さい。

### 2. フヨウの園芸品種

フヨウの仲間には、フヨウより少し遅れて咲き始める一重と八重の園芸品種があります。前者はヒトエスイフヨウ(写真-3)、後者はスイフヨウ(写真-4)といいます。朝に白い花を咲かせますが、午後になるとだんだんピンクにかわり、夕方から夜にかけてさらに赤くなり、翌朝にはしぼんでしまいます。名前は、このようなさまを酒飲みの顔がだんだん赤くなっていくことに例えたもので、「酔う芙蓉」ということになったようです。よく似たものにアメリカフヨウがあります。アメリカ原産で7~9月頃に直径20cmにもなる大きな花が咲きますが、こちらは、樹木ではなく宿根草です。



写真-1 フヨウ



写真-3 ヒトエスイフヨウの花



写真-2 フヨウの花



写真-4 スイフヨウの花